

西新宿七丁目町会

青年部ニュース

三十周年記念号

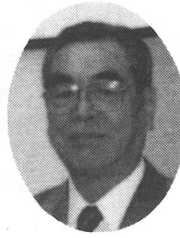
No. 38

地域社会の発展に奉仕する
青年部の継続に拍手を贈る

初代青年部部长

石川 慶太郎

祝 青年部創立三十周年記念



西新宿七丁目町会

町会長 佐々木 憲一

此の度、西新宿七丁目町会青年部が創立三〇周年行事を迎えられるとのこと、心からお祝い申し上げます。青年部の誕生は、初代西新宿七丁目町会長高須保さんの提案です。当時若手代表の石川慶太郎さんに「町の発展には後継者が必要であり、その為に若い方々の結集を欠くことが出来ない」と力説されたとあります。青年部の生の親の高須会長の要請を受け初代石川部長が就任致しました。以後十二名の部長さんにより引継がれ、現在は御子息の十四代石川時

義部長へと受継がれて居ります。大半の部長さんは、町会の副会長、各部長に選任され引続き活躍中です。高須会長の将来の町会への展望が実現しました。心から感謝とお礼を申し上げます。歴代部長さんが就任一年を経過した時点の感想が青年部ニュースに出ています。引用させて戴きますと。

先ず総会に始まり役員交歓会、月例会、年末年始の防火パトロール、新年会、スキー同好会、六月のレクリエーション、七月の旅行会、八月の子供縁日そして成子天神社仲下睦の祭礼への参加、又近隣青年部との年二回のキックベースボール大会、淀橋中学でのビーチボール大会、十一月の区民レクリエーション、町会行事への参加等多岐に亘り思えば「アッ」と云う間の一年間であったと実感されて居ます。

青年部会員の皆様が部長を中心にますますの御活躍とご発展、ご健勝をお祈り申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

昭和四十六年西新宿七丁目町会青年部が誕生いたしました。以来早や三十周年を迎え記念式典を行う由をお伺い心からおよろこびを申しあげます。初代青年部部长を仰せつかりました私にとりましては長い間町会の皆様の温かいご配慮ご理解と青年部皆さんのご協力により現在では立派に成長されましたことに心からお礼のことばを申し上げる次第でございます。

町会青年部につきましてはこの方なくしては語ることも出来ませんし又忘れることもできません。その人は故高須前町会長さんです。現在の西新宿七丁目町会は三十年前までは柏木地区と称しておりましたが西新宿七丁目と変更されたのが高須前町会長であり高須さんが初代の町会長に就任されました。高須さんは温厚篤実である反面極めて情熱家であり、また信念の方でございます。高須さんが町会長に就任されると同時にこの町の発展には後継者が必要でそのためには何んと申ししましても若い力の結集を図る以外ないと力説され直ちに町会の

発展に必要な各種の施策を樹立され新風を吹き込んだ新しい町づくりに情熱を燃やして活動されたのであります。この方こそ正に西新宿七丁目町会並びに町会青年部の産みの親であり育ての親と申しても過言ではございません。高須さんが町会長に就任されて間もない某日私を呼んで君、青年部をつくってくれと言われ私も期待に沿うべく一生懸命努力し、荒井さん、故桜井さん、浅井さんその他多勢の方々のご協力をいただきながら町中を駆け回りようやく三十二名程の発起人をお願いすることができました。

そうして発起人会議を数回重ねましたのち創立総会を常円寺を会場に一五六名の人員だったかと記憶しておりますが、西新宿七丁目町会青年部を結成いたしました。晴れの結成式の日には高須さんもご出席になり多額のお祝金をいただきました。その後誕生した青年部を町会皆さまに見ていただきたいという構想を練り思い浮び上ったのがまず成子天神社の祭典のことでした。長年眠っていた祭典を復活させようと高須さんと相談いたしましたところ、町は明るくなり活気は漲るし青年部員の団結のためにも心を一つに結集することが大切で誠に結構であると快諾を得ましたので早速五月頃から祭典の準備にとりかかりました

高須さんを総指揮者に仰ぎ天神社の総代さんは高須さんをお願いし、私は各睦の方々とは相談いたしました。そして青梅街道をお祭広場にする予定でしたので、山形県の花笠音頭を見に行き採り入れました。八月五日六日上の山温泉に一泊の旅をいたしました。その時の参加者は高須さん、故小野（金）さん、故鈴木成市さんそして私石川と四組の夫婦連れ八人が山形しあわせ銀行



のお世話で現地へ踊る花笠は全部山形しあわせ銀行のご寄贈によるもので、故皆川支店長自ら銀行の二階で踊りの手ほどきをご指導いただきました。そのようなことで花笠踊りは町会のご婦人方が手習いいたしました。

また神輿の方は青年部が担当し青年部長が責任者として渡御することになりました。その時町会青年部はできていましたが仲下睦青年部がなかったので大急ぎでつくる必要に迫られたものです。

そして七丁目町会青年部長をお引受けした方は統制上から便宜的に仲下睦青年部長も町会青年部長も両方の部長兼任することに決定いたしました。

以後は毎年練習練習と称して神輿を出すようになりました。現在青年部をつくってよかったなあと思いますのは、毎年お祭シーズンが訪れるたびに昔から伝わる祭典を眠ったままにしては先輩に申しわけないと思って祭典を復活させたこと、青年部がそれによって一致協力して団結できたキッカケをつくれたこと。

現在まで青年部がいろいろな行事を行っておりますが最初に採り上げた行事であるだけにいま静かに当事を振り返って思い浮かべますと誠に感慨無量なものがござい

終りに立派に成長されました青年部、立派に育てていただいた町会の皆さま方に心からお礼のことばを申しあげますと共に青年部が今後共ますますご隆盛にまた町の発展のためにご尽力下さいますよう心よりお祈り申しあげる次第でございます。

青年部長時代の思い出

五代目部長 尾 澤 孝 宜

青年部創立三十周年、おめでとうござい

をやるということで、青年部もそろそろ設立十年経つでしょうから合同で記念式典をということ、小田急ハルクの『豪華』で開催いたしました。当時はまだ青年部員の年齢制限の話が起る前で、部員数も確か百二十名を超えていましたので参加者はかなりの部員の皆さんだったように記憶しております。

青年部主催の行事では、概ね天候に恵まれ運がよかったと思います。たゞ、夏季納涼懇親会の時は困りました。途方に暮れました。前日からたくさんのお食糧をそろえ、当日朝早くから役員総出で準備万端。ところが集会時間が迫るころには台風が接近との情報。問い合わせると「東京湾は鏡のようです」との返事で作成続行、おつまみや弁当が出来上がったところで、「船が欠航」との知らせ。泣くに泣けないとはこういう時のことかとつくづく感じました。大量のつまみと弁当の山。当時の役員の皆さん本当に大変だったですね。台風の中、中止のお知らせと用意した食糧の配達、私の中止の決断お遅さで皆さんにご苦勞をおかけしました。紙面をお借りしてお詫言いたしますと共に皆様のご協力に感謝申し上げます。



六代目部長 小 林 正 典

青年部創立三十周年おめでとうござい

会長の時代で、町会は二十周年の記念行事

こうは心配していた雨で参加者一同がっかり、雨は降り止まず屋根の下でのバーベキューとなりました。

翌年もう一度ピクニックランドに挑戦しましたが、昨年よりさらにひどい雨の中逃げる様に帰ってきました。

四年に一度の大祭は秋晴の中、総町渡御で大いに盛り上がりましたが、当時は我々も、まだまだ若かったものですから、この勢いで翌日もせめて中神輿でよいから練習してみたいと云う事になりまして、翌朝、マイクを持って車で町内中に神輿を出す案



内をして、いざ出発となりましたが、いま一つ元気がなく静かなスタートになってしまいました。途中しばらくして神輿の棒が抜けてしまうハプニングもありましたが、町内の皆様のご協力により、三ヶ所の休憩所を設けていただいたこともあって時間が経つにつれてやっと本来の盛り上がりのある楽しい練習ができました。この二日目の神輿を出したについて、予定になかったことなので、賛否両論ありまして、いろいろな意味で忘れられない苦い思い出の祭りでした。

青年部長時代の思いで

七代目部長 中村 保信

西新宿七丁目町会青年部創立三十周年、誠にお目出とうございます。

青年部長時代の思いでを何にかと言われども、私は二年間を、無我夢中で務めていたので、何か強く頭にのこるような事はなかったのですが、私が部長になった頃は定年制が出て五年目位だったと思いますがこの頃でも部員数は一〇〇名を越えておりました。

役員の皆様が、しっかりとスクラムを組



んで、部長を支えて下さいましたので、私の様なものでも、二年間の行事を、滞りなく行えた事は、感謝の心でいっぱいです。良き、先輩友人に巡りあえて青年部を過ごした事は、私の人間をひと廻り大きくしてくれた事と思います。

最後にこれからも青年部が、ますます、発展する事を心より願っております。

八代目部長 滝 良 貞

青年部創立三十周年、おめでとうござい。ます。今、当時を振り返って見ますと、昭和天皇の崩御により年号も昭和から平成へ、又、バブルの全盛期で新宿界隈では地上げが盛んに行われ再開発のまっ只中でした。

そんな世相の中、九十八名の部員により青年部活動が行われていました。在任二年間の思い出、それは雨です。レクリエーション、縁日、お祭、雨、雨……。俺は雨男じゃないつつの。

その中でも一番の雨は子供縁日の雨です。



青年部長の思い出

九代目部長 川原 康之

いまでも、忘れる事が出来ない。楽しい思い出、創立二十周年記念。

多くの皆様の支援を受け、青年部一致団結し成功させる事に一年間は、いろいろな構成を連日集会を開いて、意見を出しあった事は昨日のように思われます。

特にイベントとして、「将門太鼓」。これは、今は亡き小杉さん、石田さん、大塚さんの力添えで、又21世紀のお店のバンドは滝さんの力添えで、心よくこの二十周年

を盛り上げていただきました。

ほんとうに、「人と人」とのつながりを大事にする七丁目、こんなに私は感動し、この青年部を築き上げた先輩の方々に敬意を表し、またここに青年部三十周年、誠におめでとうございます。

青年部は永久に不滅です。



無理せずゆっくりと！

十一代目部長 佐藤 豊

祝三十周年おめでとうございます。心より御祝い申し上げます。私の二年間は、バブルがはじける前でしたので「小銭」もあり「生活」にも少々ゆとりがあり、結構楽しい思い出ばかり（浜田英世のこと以外）で、大変だった事はありませんでした。これも歴代部長に育てられた部長が私に協力してくれたおかげだと思っています。青年部年間行事の他に、近隣7町会青年部との交流と親同志の親睦・定年制廃止後の私のすべき事・今後増える店、会社に出ながらの青年部活動・町会と青年部との線引、結構いろいろありました。その為よく飲み歩きました。

店・会社・家族を守りながらボランティアとして、町会・青年部事業に携わるわけです。

今後、町会の高齢化もあり一段と行事参加が増えると思います。無理をせず、よく話し合い、青年部で決めた事は、町会に於いても必ずプラスになる事だと思います。頑張ってください。微力ではありますが、応援いたします。

石川時義様

十三代目部長 清水 孝

西新宿七丁目町会青年部三十周年、誠におめでとうございます。

あなたのお父様が、初代青年部部長として造り上げた若者達の絆、睦の心が三十分間活き続けていると信じています。

私は、その中のたった二年と短い年月でも、選ばれた者として、人として今でも誇りに思っています。

今年の九月、仲下睦の祭礼では、あなたは誰よりも輝いて、粹にいなせに馬の上に立って下さい。

若手の青年部全員が、いつの日か自分もあの上に立ちたい。青年部長になりたいと思う様な立派な渡御をお願い致します。

そうして、あなたの次の部長から数えて十人目の青年部長はきっと、あなたの長男がするんだ……。

その日まで、あと二十年、六十を過ぎた私や、九十歳過ぎた石川慶太郎さん、歴代部長全員元気で、青年部五十周年の壇上、石川慶祐青年部長から、記念品でも貰おうかな？

その日を今から楽しみに……。青年部よ永遠なれ。



青年部活動と私

十二代目部長 石川 謙一

西新宿七丁目町会青年部の三十周年おめでとうございます。

私が、青年部活動に携わってよかった事は、「祭」「子供縁日」「レクリエーション」「防火防犯パトロール」など多くの青年部活動の中で、様々な諸先輩に「育てられながら教えられ、叱られては、笑いながら」素晴らしい人達に出逢えた事です。



青年部長になって

十四代部長 石川 時義

この地に生をえて早四十六年、縁あって第十四代西新宿七丁目町会青年部長を拝命致しました。皆様もご存じのように初代の部長が私の父親で青年部も三十年に成ろうとしています。思い起こせば私の子供の頃の記憶では父親はまず家に居ない、夜中か朝方に帰ってきてはいつも二日酔い……というイメージです。しょうがない親爺だなーと思っておりました。ところが世の中とは否もので今、私の子供達（女房も）の口癖

これからの青年部は、社会状況の変化や少子化などの影響で思うような青年部活動が出来なくなる可能性も多少あるとは思いますが、どうか若い力をもって、頑張ってください。楽しい青年部をつくって下さい。

青年部のこれからのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



は「今日のご飯はいるの、今日は居るの」です。まあそれも流れの中の事だからしょうがないのでしょう。ただ部長になってつくづく思うことは青年部を支えてくれている執行部のみんなの『ありがたみ』です。部長経験者はたぶんみんなそれを経験し感謝したのだと思います。今のうちに決まってきた青年部活動と違い創生期の青年部を支えてくれ、いろいろと作り上げてくれた先輩方は本当に大変だったと思います。ありがとうございます。

ふと気が付くとその青年部を造り上げて来た先輩達の子供達が実に今、青年部で活躍しています。歴史の流れを強く感じるとともに、この流れがたとえゆるやかに成ろうとも留めてはいけないと思うのは私だけではないと思います。

大変な不景気な時代にこの地でまさに第一線で活躍している青年部員です。昔の古き良き時代とは違い、商売、子育て、年寄りの世話、と頑張っています。町会の活動が少し疎かに成るかもしれませんが、歯がゆいかもしれませんが、自分たちの子供達が頑張っているのですから温かい目で一つご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。ただし今も昔も青年部員の青年部にかける情熱は変わっていないと確信しております。青年部バンザイ！



編集後記



皆様、お忙しい中、青年部へのご協力ありがとうございました。
突然で、しかも短期間でのお願いにもかかわらずご寄稿いただきました。厚く、お礼申し上げます。

皆様の貴重なご体験等をこの文集にて接し私達もこの道程を、つつがなく歩んで行きたいと考えております。

皆様のご健康とご繁栄を祈りましてお礼の言葉にかえさせていただきます。

なお、文章は原文のまま掲載させていただきます。

平成十三年七月

青年部